

銀繊維の選び方ガイド

本物とマーケティングを見分け、失敗せずに買うための1ページ

足や靴のにおいの正体は汗ではなく、細菌が汗や皮脂を分解して生じる代謝物です。だから鍵は「持続的な抗菌」。抗菌製品は価格も効果も大きく異なり、その差は下記の3点に集約されます。

1 まず：銀は「繊維に作り込む」か「表面に付ける」か

種類	銀の存在の仕方	洗濯耐久性	よくある問題
銀繊維（本体練り込み）	糸の本体に作り込む	高い、50回以上	コストが高め
銀イオン（コーティング／添加）	表面に付着・添加	中、洗濯で徐々に低下	表示が曖昧、不安定
スプレー式ナノ銀	表面スプレーコーティング	低い、数回で落ちる	剥離・溶出の懸念

要点：繰り返しの洗濯に耐えるのは繊維に作り込んだ銀。表面に付けただけのものは洗い流されます。

2 次に：第三者報告を求め、耐久性と安全性を見る

- ☐ 「抗菌99.9%」は誰でも書ける → 重要なのは50回洗濯後にどれだけ残るか
- ☐ 細胞毒性試験（ISO 10993-5）：グレード0か
- ☐ 皮膚刺激性試験（ISO 10993-23）：グレード0か
- ☐ 銀・重金属の溶出（EN 16711-2）：不検出（ND）か

肌に触れる製品、乳幼児用、長時間着用する製品では、抗菌の数字より溶出と刺激のほうが重要です。抗菌で、かつ溶出せず、刺激もない。これが肌接触にふさわしい基準です。

3 最後に：ブランドが詳細を公開できるか

- ☐ 銀の形態と製法を説明できるか（例：ナノ銀コーティングではなく原子銀 Ag⁺ の練り込み）
- ☐ 特許はあるか（例：台湾特許 I538806）
- ☐ 完全な ISO / SGS 試験報告を提供できるか

4 購入前に販売者へ尋ねる5つの質問

- ◆ 銀は繊維本体への練り込みか、表面へのスプレー／浸染か？
- ◆ 洗濯耐久試験はあるか？何回洗っても効果があるか？
- ◆ 細胞毒性・皮膚刺激・溶出の試験報告はあるか？
- ◆ 抗菌率はどの規格で測定したか（例：AATCC TM100、ISO 18184）？
- ◆ 特許や第三者認証はあるか？報告を見せてもらえるか？